

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍以前は定期的に行っていたが コロナを期に会議の開催出来ていない状況で、外部の方々の意見を伺う事が出来ていない。	書面での運営状況報告は継続し行い、感染状況を見ながらではあるが、対面で情報・意見交換が出来る場を設けるようにする。	①書面報告の際は、報告後必要に応じて出向き、意見を伺えるよう努め、運営に役立てていく。 ②個人・関連機関へ連絡を行い、参加可能要件の把握を行う。 ③感染対策の見直し(動線等含め)を行い、参加者への周知と参加協力の依頼を行う。	6ヶ月
2	13	Webでの研修が増えている事や、対面型外部研修の減少により、個々のスキルアップや事業所全体でのサービス(支援)の向上が図れていない。	個々の力量を再把握し、状況に合わせた助言指導や事業所内研修(可能であれば外部研修や外部講師依頼も)を行い事業所全体の支援向上を目指す。	①介護技術・接遇に関し、階層に応じた評価表を作成し定期的に評価(自己・上司)を行い足りていない部分の意識づけや改善に役立てる(記入時点 作成済 内容見直し中) 完成まで期間：2ヵ月 評価：3回/年 ②感染状況を見ながら参加(対面)可能な研修情報収集と申し込み(期間：随時) ③職員が講師となったり資料作りをしての内部研修の実施(限られた人員、時間での研修方法の立案)	12ヶ月
3	1	事業所としての理念を掲げられておらず、現在働く職員たちの、思いが込められた理念のもと、チームが一丸となってサービスを実践する必要がある。	職員全員が法人理念を共有しグループホームの基本方針を理解したうえで事業所理念を作る。これまでの歩みを踏まえつつ、新たな理念のもとサービスの向上を目指す。	ユニット会議、内部研修で理念の必要性を学び事業所理念を作る 理念を職員の話し合いのもとづくり、作った理念や目標の共有、実行	12ヶ月
4	6	身体拘束について参加形式での定期的開催と、「地域密着型サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」の理解。	身体拘束となる行為を理解する。 別事業所委員含め参加形式で会議実施。	事例をもとに考え、身体拘束への意識を高める。ユニット会議の中で最低3ヶ月に一回は、身体拘束にあたる状況が無い点検、勉強会を行う。	12ヶ月
4	34	年2回の災害対策訓練は充分とはいえ、日頃から、机上での手順の確認や非常持ち出し品の確認も必要。新型コロナウイルス感染症対策から、地域との協力体制をどのように築いていくかも課題となっている。近年 様々な災害が発生しており、水害等を含めて更なる避難体制と訓練が必要である。	防災委員で年間の予定表を作成し、火災だけではなく、水害等も含めた避難体制と訓練の充実を図る。	避難の手順や、非常持ち出し品等について、防災委員が中心となりマニュアルの見直し、水害やその他災害発生時の避難について、避難 計画の整備と机上訓練の実施。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。